

# 筑波大学附属図書館における「フレッシュマン・セミナー」の 実施について

## —中央図書館の事例を中心に—

Reports of the “Freshman Seminar” in the University of Tsukuba Library:  
Focusing on the case of the Central Library

大和田 康代<sup>1</sup>, 西 彩花<sup>2</sup>  
Yasuyo OWADA<sup>1</sup>, Ayaka NISHI<sup>2</sup>

**抄録**：筑波大学では、学生の主体的な学習を支援するため、例年4月から6月にかけて新入生を対象とするオリエンテーションとして「フレッシュマン・セミナー」を実施している。本稿では中央図書館の事例を中心に、近年の参加対象者や実施体制の変遷、新型コロナウイルス感染症の影響による2020年度のオンライン化の詳細および今後検討すべき課題について報告する。

**キーワード**：初年次教育，オリエンテーション，学習支援

### 1. はじめに

本稿では、筑波大学において新入生を対象として実施するオリエンテーションである「フレッシュマン・セミナー」について、附属図書館が実施するセミナー（以下、「図書館フレセミ」という。）に関し、特に中央図書館で開催するものを中心にその内容、実施状況、今後の課題等を報告する。

筑波大学附属図書館は総合的な役割を担う中央図書館と、体育・芸術図書館（以下、体芸図書館）、医学図書館、図書館情報学図書館（以下、図情図書館）、大塚図書館の4つの専門図書館、計5館で構成されている<sup>1)</sup>。このうち今回報告する「学群生を対象とする図書館フレセミ」を実施しているのは中央図書館から図情図書館までの4館である。大塚図書館は東京キャンパスにあり、社会人大学院生を主なサービス対象としているため、「学群生を対象とする図書館フレセミ」は実施していない。

なお、本学では一般的に「学部」「学科」にあたる学士課程の組織を「学群」「学類」と呼称しているため、本稿においてもこの名称を使用することとする。

#### 1.1 筑波大学のフレッシュマン・セミナー

本学のフレッシュマン・セミナーは、1年生の春学期に週1回の必修科目として開講される授業である。本学ではフレッシュマン・セミナーを「大学生活の入門の時間」と位置づけており、「クラスの仲

間やクラス担任とつながりをもつ場」になるとしている<sup>2)</sup>。

なお、クラスは学生に対する指導・助言の場と、学生からの意向反映の場として設けられた制度である。約20名を1単位とし、クラス担任教員が配置され、教育活動および学生生活に関する諸事項を伝えとともに、学生からの相談を受けている<sup>3)</sup>。

本学のフレッシュマン・セミナーで学ぶ内容として、ガイドブック『新しい学生生活を創るためにフレッシュマン・セミナー2020』<sup>2)</sup>には以下の6点が挙げられている。

- (1) 筑波大学の教育システム
- (2) 安全で安心な学生生活
- (3) 図書館の利用法
- (4) グローバル人材
- (5) 履修登録と授業評価
- (6) キャリアデザイン

#### 1.2 図書館フレセミとは

フレッシュマン・セミナーで学ぶ内容として「図書館の利用法」が挙げられていることは先に述べた。この大学の方針に基づき、附属図書館では原則として全学類を対象に、全10コマのフレッシュマン・セミナーのうち1コマを使い、授業の一環として図書館活用法の講義および図書館見学を行ってい

る。これが図書館フレセミである。

なお、1 コマすべてを図書館の説明に充てる学類と、1 コマの中の一部を図書館の説明に充てる学類がある。

### 1.2.1 目的

前述のとおり、フレッシュマン・セミナーは本学のクラス制度を基礎とする導入教育的な位置づけの授業科目である。授業のねらいの一つに、専門の学問領域についての理解を促し、主体的な自覚に基づく学問への転換を図ることが挙げられている。

附属図書館では学生の主体的な学習を支援するため、新入生が入学後の早い時期に授業の調べ物やレポート作成時に役立つ資料の探し方を学び、図書館を活用できるスキルを獲得することを目的として、図書館フレセミを企画・実施している。

### 1.2.2 内容

図書館フレセミの基本的な内容は、附属図書館の基本的な使い方および蔵書検索方法についての講義と、図書館見学である。

中央図書館で実施する図書館フレセミの場合、現在の基本的な講義内容は附属図書館の使い方を五つのステップに分けて紹介した後に研究倫理（剽窃・盗用の禁止）に触れ、最後に中央図書館の各カウンターとそのサービス内容を簡単に紹介するものとなっている。中央図書館の使い方説明の内容は以下のとおりである。

- (1) 図書館でPC を使おう
- (2) 本を探そう
- (3) 論文（雑誌）を読もう
- (4) 一人で、グループで図書館を使おう
- (5) 成果をかたちにする場所としての図書館

このうち(1) から(3) までは各専門図書館と共通する点が多く、(4) と(5) は中央図書館独自の施設や設備についての紹介が中心となっている。

各専門図書館では中央図書館で作成した講義資料を基に、自館の特徴的な資料や設備等を紹介する内容を盛り込んだ講義資料を作成している。

また、図書館フレセミの講義で研究倫理について触れるようになったのは2015年度からであるが、2017年3月には『筑波大学研究倫理教育に関するガイドライン』<sup>4)</sup>が定められ、この第5項第8号(ア)において「新入生に対する必修科目として開講する「フレッシュマンセミナー」等において、著作権の

保護や不適切な引用等について啓発を行うものとする」とされた。このガイドラインが2017年4月1日から実施されたことを受けて、図書館フレセミでは研究倫理に関する内容を必須項目として講義に組み入れることとなった。

見学については参加する学類の希望に応じて実施するため、各館で対応が異なる。中央図書館、体芸図書館では参加する全学類に対して実施しているが、医学図書館では実施しておらず、図情図書館では実施する学類としない学類がある。

ここで中央図書館での見学について簡単に紹介する。中央図書館は地上5階建てで、本館・新館が渡り廊下でつながっている。本館2階がメインフロアとなっており、メインカウンターやレファレンスデスクのほか、ラーニングコモンズもここに設置されている。新館2階は閲覧席を配置したスタディースペースで、対面朗読室を備えている。3階から5階は分野別・種類別に資料が配架されている。3階が人文科学、4階が社会科学、5階が自然科学で、原則として本館には図書、新館には雑誌を配架している。本館1階には新聞バックナンバーと本学の前身校である東京教育大学の旧蔵書が配架され、新館1階には貴重書展示室と貴重書庫、和装本書庫がある<sup>5)</sup>。

実施体制については後述するが、中央図書館における図書館フレセミでは参加する学類の専門分野に合わせて見学する階を決定している。例えば人文系の学類は1階から3階を見学し、理数系の学類は1,2階と5階を見学するようにコースを設定している。

### 1.2.3 実施体制

中央図書館では2019年度から、実施のための調整および講義は原則として、アカデミックサポート課の学習支援担当が行い、見学は同課の多様化支援担当のコーディネートののもと、中央図書館の全職員と筑波大学附属図書館ボランティア（以下、図書館ボランティア）<sup>6)</sup>の協力により実施している。専門図書館では、各館の職員が実施にかかる調整、講義および図書館見学（学類の希望による）を実施している。学群生を対象とした2019年度の図書館フレセミの実績は表1のとおりである。

### 1.2.4 実施手順

実施にあたっては日程調整や教員との連絡が必要になる。各部局の担当事務組織である支援室の学群教務担当者および教員からの協力を得て図書館フレセミは実施されている。この連絡調整は原則として学習支援担当が行う。

表1 2019年度図書館フレセミ実績

日付	曜日	時間	学類名	学生数	対応館
4/10	水	9:00-9:40	情報メディア創生学類	66	図情
4/10	水	12:55-13:15	体育専門学群(第1回目)[新入生オリエンテーション内で講義]	254	体芸
5/31	金	15:15-16:30	体育専門学群(第2回目)[講義, 見学]		
4/11	木	10:10-11:25	国際総合学類	82	中央
4/16	火	13:45-15:00	芸術専門学群(第1回目)[講義]	107	体芸
5/7	火	13:45-15:00	芸術専門学群(第2回目)[講義, 実習, 見学]		
4/16	火	14:15-14:45	医学群(医学類・看護学類・医療科学類)※3学類合同で実施	250	医学
4/18	木	10:10-11:25	生物資源学類	122	中央
4/23	火	13:45-15:00	生物学類	80	中央
4/25	木	10:10-11:25	教育学類	35	中央
4/26	金	10:10-11:25	工学システム学類	134	中央
5/10	金	10:10-11:25	社会工学類	123	中央
5/14	火	13:45-15:00	地球学類	51	中央
5/16	木	10:10-11:25	社会学類	82	中央
5/17	金	10:10-11:25	応用理工学類	124	中央
5/21	火	13:45-15:00	数学類	41	中央
5/22	水	12:15-13:30	知識情報・図書館学類	105	図情
5/23	木	10:10-11:25	心理学類	53	中央
5/24	金	10:10-11:25	人文学類	131	中央
5/28	火	13:45-15:00	化学類	51	中央
5/30	木	10:10-11:25	障害科学類	38	中央
5/31	金	10:10-11:25	日本語・日本文化学類	41	中央
6/4	火	13:45-15:00	物理学類	61	中央
6/6	木	10:10-11:25	情報科学類	86	中央
6/7	金	10:10-11:25	比較文化学類	81	中央
合計				2,198名	

中央図書館での実施分については、当日の参加者の集合に関する連絡事項、参加予定人数、引率教員の連絡先、支援が必要な障害学生の情報を教員に問い合わせしている。教員との連絡調整では、視覚障害の学生がいるので配布資料をファイルで事前に送付して欲しい、車椅子を使用している学生がいるので座席配置や見学時に配慮して欲しい等の要望が寄せられる。また、特別な対応が必要な学生が複数いる場合もあり、見学担当者との調整も重要になる。

なお、専門図書館で図書館フレセミを受ける学類については、日程調整を含めて専門図書館の職員と直接相談するよう依頼している。前掲の表1の芸術専門学群のように実習を希望される場合もあり、各館の担当者が実施内容を調整している。

## 2. 中央図書館における図書館フレセミ

ここからは、筆者の担当する中央図書館での図書館フレセミに絞って報告を進めたい。

中央図書館に来館して集会室で講義を受け、学類の分野に照らして最も利用頻度が高いと思われる箇所を見学するという基本の形は変わらないが、年度によって図書館フレセミの対象者や内容は変化してきた。また、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインでの実施となるなど、急な変更もあった。更に2020年度には総合選抜入試<sup>7)</sup>が実施され、2021年度からは学生の所属形態も変わることが決定している。図書館フレセミにも大学のカリキュラムや学習環境の変化に合わせた対応が求められており、様々な検討が必要となっている。



## 2.1 実施体制

中央図書館での図書館フレセミについて報告するにあたり、まずは実施体制の変遷についてまとめておきたい。最近10年間の、実施に関係する担当係の変遷を抜粋して図1に示す<sup>8)</sup>。

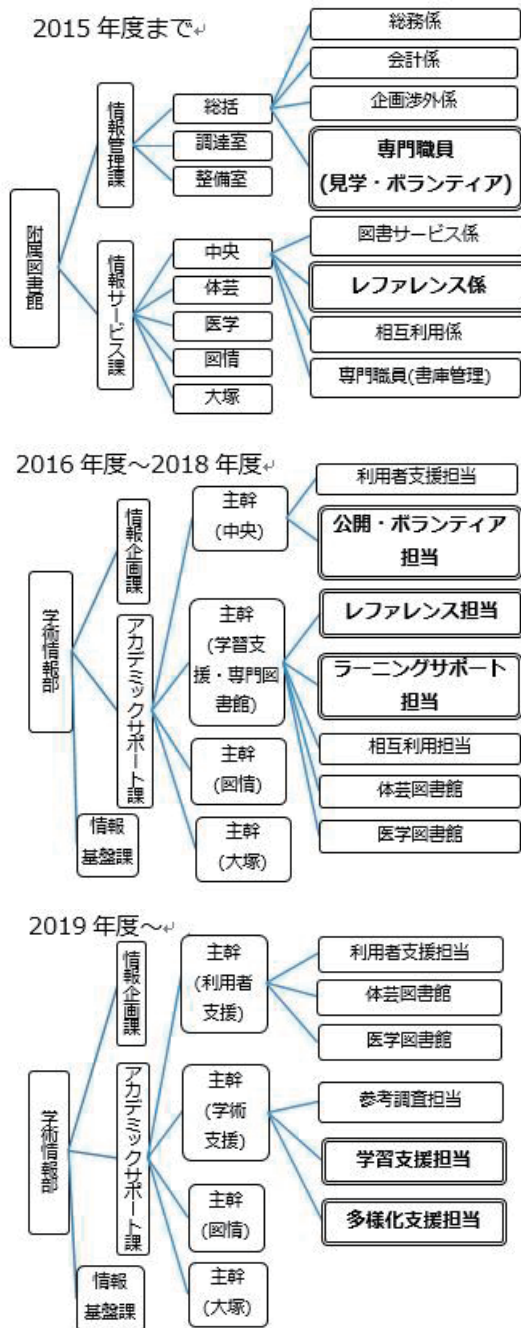


図1 実施体制の変遷 (丸内が関係する係・担当)

2015年度までは講義をレファレンス係、見学案内を専門職員（見学・ボランティア）と図書館ボランティアが行っていたが、2016年度の組織改編後は講義をレファレンス担当とラーニングサポート担当、見学を公開・ボランティア担当と図書館ボランティアが中心となって行うことになった。更に2019年度

にも組織改編が行われ、前述のとおり講義は学習支援担当、見学は多様化支援担当と図書館ボランティアを中心に行うことになった。

各担当の業務内容については割愛するが、基本的に図書館フレセミは講習会の担当係と図書館ボランティアの担当係を柱に実施されてきたと言える。

## 2.2 実施詳細

ここからは中央図書館における図書館フレセミを参加対象者や実施体制の変遷に基づいて大きく4つの時期に分け、それぞれの詳細を報告する。

### 2.2.1 2014年度まで

2014年度までの図書館フレセミは希望する学類のみを対象に実施されており、日程も学類の希望に応じて実施する方法を取っていた。

前掲の図1のとおり、この時期は図書館フレセミに関わる業務はレファレンス係と専門職員（見学・ボランティア）が担当していた。図書館フレセミを希望する学類が年々増加したことを受けて2011年度からは上記の担当以外の職員も図書館フレセミの実施に協力することになったが、当初は職員の中から希望者を募る方法であった。特に図書館ボランティアによる補助が困難である、1限目（8：40～9：55）、3限目（12：15～13：30）および6限目（16：45～18：00）の説明および見学要員の応援を中心に協力者を募集した。協力者はレファレンス係と専門職員（見学・ボランティア）による事前のレクチャーを受けて、講義や見学案内に対応していた。

図書館フレセミの実施は希望の学類のみとしてはいたが、2014年度には25学類中24学類とほぼすべての学類で実施された。このことから、本学の教育方針や教育の質保証等を担当する教育企画室長と図書館関係者で検討し、フレッシュマン・セミナーの1コマは必ず図書館利用案内に充てることを全学的にオーソライズする方向で関係部局との調整が行われた。その結果、2015年度からはすべての学類を対象に図書館フレセミが実施されることになった。

図書館フレセミ参加者（学群生）数と参加学類数の年度ごとの変化についてまとめたものを表2に示す。

### 2.2.2 2015年度から2018年度

2015年度の図書館フレセミに関する業務は従来どおりレファレンス係と専門職員（見学・ボランティア）で分担していたが、2016年度の組織改編によりラーニングサポート担当、レファレンス担当、公開・

表2 図書館フレセミ参加者数・参加学類数の変化

年度	参加者(学群生) 延べ人数	参加学類数 (全25学類中)
2012	1,375	17
2013	2,000	20
2014	2,382	24
2015	2,253	25
2016	2,245	25
2017	2,434	25
2018	2,367	25
2019	2,198	25

ボランティア担当で担うこととなった。また、これまでは希望制としていた担当以外の職員の協力体制についても、部署ごとに一定の対応コマ数を割り当てて調整する形を取るようになった。この変更は主に対象学類増加による開催回数増加への対応と全館体制での安定的な実施を目指すものであった。

講義の協力者に対しては講義スライドのテンプレートを作成して提供し、見学案内の協力者に対しては見学案内シナリオの提供と担当職員による簡易レクチャーを行った。加えて、他の担当者が行う講義や見学案内を自主的に見学するセルフラーニングを依頼した。

この時期の利用者に対する大きな変更点としては、日程調整の方法が挙げられる。2015年度に授業の一環として全学類を対象に図書館フレセミが実施されるようになってから、日程は個別の希望によらず事前に図書館から指定し、不都合があれば調整する方法になった。また、講義では「論文」に関する内容を大幅に削除し、研究倫理に関する内容として剽窃・盗用の禁止と正しい引用に関するスライドを追加するなどの変更があった。

2018年度までは比較的日程に余裕があり、学類の希望に合わせた時間帯に開催することが可能であった。ただし大幅な日程調整や2時限連続での開催が必要になった事例があったほか、1限目や6限目など、見学案内にあたる図書館ボランティアの活動時間外に実施を希望されることもあり、職員の負担が大きい面もあった。

### 2.2.3 2019年度

続いて紹介するのは2019年度の図書館フレセミである。2019年度には大きな変更点が二つあった。一

つは前述した、附属図書館の組織改編に伴う担当の変更である。学習支援担当という学習支援に特化した担当が設置されたことで、講義については原則として他の担当に協力者を割り当てずに実施することが可能になった。

もう一つは本学のカリキュラム変更で、フレッシュマン・セミナーの日程が大幅に限定されたことである。具体的には火曜日4限、木曜日2限、金曜日2限の3コマのみの開講となった。必然的に図書館フレセミもこのコマのいずれかで実施することとなり、2018年度末は日程調整に大変苦慮した。

また、従来のように同じ学類を何日かに分けて図書館フレセミを行うことが難しくなったため、人数の多い学類については入れ替え制を取ることにし、講義を受けた後に館内を見学するグループと、先に館内を見学してから講義を受けるグループを作って対応した。グループ分けは先着順とし、会場に到着した参加者から着席させ、講義会場が満席となった時点でそれ以降の参加者を見学に振り分ける方法を取った。入れ替え制の実施にあたって講義は基本的に同じ担当者が2回行い、もう1名はコーディネーターとして入れ替えの指示や、会場内での資料の配布を行うこととした。

見学案内については、担当の体制は変更されたが、従来どおり図書館ボランティアと中央図書館の職員に協力を依頼して実施した。人数の多い学類では1回の図書館フレセミで最大130人を超える参加者があり、見学時の1グループの人数が少なくとも13名程度になることから、見学案内担当者の負担が大きくなっている。

経験上、グループの人数が10名を超えると案内者の声が届きにくい、まとまった行動が難しいなどの問題が生じやすく、グループの人数を減らしてグループ数を増やすと案内者の人数確保が難しい、見学ルートの重複が起こって説明がしにくくなるという問題がある。現在は1回最大6グループ程度、入れ替え制の場合は最大延べ12グループ程度で見学案内に対応しているが、曜日や時間帯によっては1人の担当者が1コマの中で2回続けて見学案内に対応せざるを得ないことがある。

ここで2019年度の図書館フレセミの際に引率教員に対して行ったアンケートの結果を抜粋して表3に示す。従来に比して制限の多い状況であったわりには好意的な感想を得ている。次年度への要望では文献検索が必要という意見と不要という意見の両方があったほか、講義中に学生が問題に回答するような

時間があっても良いという意見が複数見られた。人数が多くなると参加型の講義は難しくなるが、検討の必要があると考えられる。また、図書館で開催している講習会やイベント等の広報について、これまで以上に注力する必要性も感じられる。

表3 2019年度アンケート結果 (抜粋)

今年度の感想
過不足なく説明いただいた。 論文探しを1年生に説明するのはまだ早いかもしれないが、他に聞く機会もなかなかないのであってもよいように思う。
大変分かり易い説明だった。 蔵書検索方法の説明を少し詳しくしていただいても良いかと思う。
全体的にとっても分かりやすくまとめられていて理解しやすかった。 オンラインジャーナルについては、閲覧方法のみならず、PDFファイルの保存の可否や印刷についても説明していただけると良かった。 館内見学は声が通らないので、サポート資料があると助かる。聴覚過敏の学生には聞き取れないかもしれない。
論文の探し方などは参考になった。そもそも電子ジャーナルの仕組みや、読むのに実は多額のお金がかかっていることなども伝えてもらえたら。
共通科目で論文の扱いについても学ぶので、事前に論文検索の手法を紹介いただけるとは助かる。
発表やレポートのコピペ問題は本当に頭が痛い問題である。「すぐ発覚する」など、もっとしつこく言っても良いぐらい。
研究倫理についての言及があったことはよかった。

次年度への要望
パワポの説明に加えて、検索のデモンストレーションを含めると(動きが含まれることとなり)、1年生にとっては関心が一層高まるのではないか。
本や論文の探し方は、実際にPCを動かしながらできるとなお良い。

説明の中に、簡単なクイズを少し入れると学生の集中力が続くと思う。
聞くだけだとどうしても気が緩むので、適度に当てて回答させても良いかと思う。
研究大学として論文検索の方法の説明はぜひ続けてほしい。
論文検索はたしかに重要だが、オリエンテーションで詳しく説明する必要はないと思う。
1年生には、雑誌検索の説明はまだ難しいと感じた。方法を説明するよりも、むしろ、「知りたくなったらどこへ行けばよいか」を丁寧に教えていただけたらありがたい。他方で、マイライブラリの使い方については、より具体的な説明があるとよいと思う。
資料を探す以外にも図書館に行きたくする内容をもっと紹介してもよいのでは。ラーニングサポート等も素晴らしい取組なのでもっとアピールしてほしい。
この時間とは別に、レポートの書き方を詳しくアドバイスする時間があってもよいと思う。またデータベースの使い方ももう少し詳しい説明があればよいと思う。
図書館のルールやマナーについてももっと説明しても良いと思う。

## 2.2.4 2020年度

当初、2020年度の実施方法は2019年度を踏襲し、内容は2019年度の教員アンケートで寄せられた意見を取り入れて、簡単なクイズを含む講義と館内見学で構成する予定であった。従来どおり2月に日程調整を行って実施日を決定したが、その後の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、アカデミックサポート課内で検討した結果、オンラインで講義コンテンツを提供すること、全体での見学案内を中止し自由見学とすることを3月末に決定した。

オンライン化に踏み切った理由はいくつかあるが、何よりも大きかったのは会場となる集会室での、いわゆる3密の状態を避けられないことである。集会室には窓がないうえ、100人を超える学生に対応するには密集した座席配置にせざるを得ず、感染リスクを避けるためには従来の講義形式に代わる方法を考える必要があった。



また、見学についても10人を超えるグループで、密集した形での案内を実施することは望ましくないと判断したことに加え、対応する図書館ボランティアが活動できないという問題もあった。当館では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月5日から学外者の利用を停止している<sup>9)</sup>が、図書館ボランティアは学外者と見なしているため、学外者の入館を制限している状況下では活動ができない。また高齢の方も多いため、仮に学外者の入館制限がなくなったとしても、図書館フレセミの実施される4月から6月の時期には自主的に活動を休止することも想定された。

このような状況を踏まえ、筆者は3月末から講義コンテンツのオンライン化に向けた作業を開始した。具体的には講義部分の動画作成と、館内見学ガイドの作成である。当初の学年暦では4月6日であった授業開始日が4月27日に変更されたことを受け、4月15日に教員へのコンテンツ提供を完了することを目標にした。作業の内容は次のとおりである。

- (1) 講義用資料のスライドをもとにナレーション付きの動画を作成し、YouTubeで限定公開
- (2) 講義用資料のスライドにノートを付けたものをテキストとして作成
- (3) 見学案内のための「見学ガイド」を作成

(1) は講義資料をスライド動画にしたものに、職員が録音したナレーションを合わせた。学習支援担当では「知の探検法」という授業の一部を非常勤講師として担当<sup>10)</sup>しており、動画作成にはその授業のノウハウをそのまま活かすことができた。基本のスライド動画はMicrosoft PowerPointを、音声ファイルはMicrosoft Windowsのボイスレコーダーやフリーソフト<sup>11)</sup>を使用して作成している。

動画は講義の内容の区切りに合わせて5本に分けて作成し、YouTubeのプレイリストでまとめて閲覧できるようにした。(図2)

動画の合計時間は約35分で、これは従来の対面での講義とほぼ同じ長さである。

なお、動画をYouTube上で提供するのにも「知の探検法」と同じ方法である。本学では学習支援システムとしてmanaba<sup>12)</sup>を利用していることから、プレイリストの埋め込みコードを教員に通知することでmanabaでの提供を可能にした。

(2) は聴覚障害や弱視等、動画のみでは十分な内容の理解が困難と思われる学生に対するフォローの

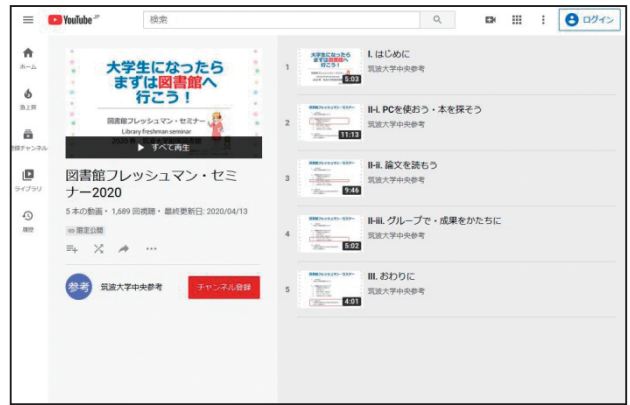


図2 YouTube プレイリスト画面

ために作成した。また、動画では説明しきれない注意事項を掲載するなど、一般の学生にも役立つ内容になったと考えている。

(3) は中央図書館内の見どころや今後の学習の際に利用する可能性の高い場所、館内での飲食ルールなどをまとめた「中央図書館見学ガイド」に館内案内図を合わせたものである。

通常の見学案内で回る場所を中心に、新入生の興味を引く内容になるよう検討した。「中央図書館見学ガイド」部分のベースには、昨年度のオープンキャンパス用に作成した高校生向けの見学ガイドを活用することで、比較的短時間での作成を可能とした。(図3)



図3 見学ガイド(「中央図書館見学ガイド」部分を抜粋)

オンライン化の決定から資料の提供開始まで時間的な余裕がない中での作業ではあったが、最終的には目標どおり、4月15日に教員への資料提供を行うことができた。当初は資料をメールで配布する予定であったが、ファイルサイズが大きくなってしまったため、図書館のサーバに置いたファイルをダウンロードしてもらう方法をとった。

また、この資料について、学生への提供方法は教員に一任することとした。これは図書館フレセミが

授業の一環であり、実施の主体が教員であることによる。資料の提供開始時にこの旨を教員に通知したところ、多くの教員から manaba を利用して学生に資料を提供するとの連絡があった<sup>13)</sup>。

なお、教員への資料の提供を開始した2日後の4月17日に本学の方針として職員の勤務体制縮小が決定され、4月21日からの附属図書館全館の臨時休館が決定した。4月27日の授業開始後も臨時休館が継続しているため、残念ながら今回作成した見学ガイドが学生の館内見学に利用されている様子は確認できていない。

### 3. 今後の課題

今後の図書館フレセミを効率的に実施し、より学生に効果的なものとするために以下のような課題が考えられる。

2019年度の報告でも述べたとおり、カリキュラム変更による日程の過密化により1回ごとの図書館フレセミの参加者数が増加している。この状況を踏まえた対応を検討する必要がある。例えば、講義の会場を変更することや、講義部分のオンライン化、館内見学のセルフツアー化などを想定している。これは現在の新型コロナウイルス感染症が終息し、従来どおりの図書館フレセミが実施できるようになった場合でも、検討の必要があるものと考えている。

特に館内見学に関しては対応可能なスタッフの人数に限界があるため、喫緊の課題と言える。図書館のセルフツアーについては多くの大学での実践例があるため、先行事例を参考に実施を検討したい。

なお、新入生に対して図書館に入館する際の心理的なハードルを下げることも図書館フレセミの重要な役割である。現在の実施方法では来館がほぼ必須となっているが、オンライン化、セルフツアー化した場合には実際に来館する機会が減ることが懸念されるため、これまで以上に学生が図書館に興味を持ち、自主的に来館するような工夫が必要である。予算の問題等もあるが、例えば以下のようなことが考えられる。

(1) 新入生にお勧めの場所や電動集密書架の使い方についてバーチャルツアーの動画を作成し、講義の動画とともに提供する

(2) オンラインの講義動画に複数のキーワードを入れておき、すべてのキーワードを集めて来館した学生に図書館のノベルティグッズをプレゼントする

(3) セルフツアーにスタンプラリーのようなゲーム性をもたせ、条件をクリアしたら図書館のノベルティグッズをプレゼントする

(4) クラス担任の教員に協力を依頼し、クラスの

学生に図書館の有用性を周知してもらう

併せて参加する学生や教員からのフィードバックを受ける手段についても検討しなければならない。

また、今年度中の対応が必要な課題として本学の総合選抜入試への対応が挙げられる。関係する各組織と十分に連携し、新制度導入後の新入生の図書館利用に支障をきたすことのないよう準備することが求められる。

これらの課題については、図書館フレセミの担当である学習支援担当のみでなく、他の担当の職員からも知見やアイデアを募り、全館的な体制で取り組んでいくことが必要と考えている。

### 4. おわりに

当館における図書館フレセミは、大学のカリキュラム変更、学習環境の変化に対応し、教員からの要望やアンケートによるフィードバック、実施にあたる図書館職員の意見等を取り入れながら継続的に実施してきた。本学学生の主体的な学びを支える附属図書館の重要な活動の一つとして、引き続き取り組んでいきたい。

この報告が一つの事例として大学図書館で初年次教育に関わる方に少しでも役立てば幸いである。

#### 注・引用文献・参考文献

- 1) 筑波大学附属図書館概要. 筑波大学附属図書館. [https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/2019outline-J\\_0.pdf](https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/2019outline-J_0.pdf), (参照2020-05-27).
- 2) 筑波大学フレッシュマン・セミナーガイドブック編集委員会. 新しい学生生活を創るために フレッシュマン・セミナー2020. 2020. <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/fresh/pdf/2020/15.pdf>, (参照2020-05-15).
- 3) 学生のための組織と課外活動 クラス制度, 学生担当教員制度, 公的學生組織. 筑波大学. <https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/unions/class.html>, (参照2020-05-15).
- 4) 筑波大学研究倫理教育に関するガイドライン. 筑波大学. <https://ura.sec.tsukuba.ac.jp/portal/wp-content/uploads/2017/09/88eb267f4e8f21c3ffb690814aced369-1.pdf>, (参照2020-05-25).
- 5) 中央図書館のフロアマップ・資料配置. 筑波大学附属図書館. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/access/loc-chuo>, (参照2020-05-27).
- 6) 図書館ボランティア. 筑波大学附属図書館. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/volunteer>, (参照2020-05-18).
- 7) 総合選抜とは. 筑波大学. <https://ac.tsukuba.ac.jp/nyushi/sougou>, (参照2020-05-26).
- 8) 当館の現在の管理運営機構の詳細については以下を



参照されたい。また、過去の組織図については年報に掲載されている。

- (1) 筑波大学附属図書館の管理運営機構. 筑波大学附属図書館. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/organization>, (参照2020-05-15).
- (2) 刊行物. 筑波大学附属図書館. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/report>, (参照2020-05-15).
- 9) “学外 (卒業生・元教職員を含む) の皆様へ”. 筑波大学附属図書館. 2020-05-08. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/information/20200304#visitors>, (参照2020-05-15).
- 10) 堀智彰ほか. “図書館の探検的学習を目的とした文献探索ゲームの評価”. 情報知識学会誌. 2014, 24 (2), p. 189-196. [https://doi.org/10.2964/jsik\\_2014\\_017](https://doi.org/10.2964/jsik_2014_017), (参照2020-05-18).
- 11) 音声編集に使用したツールは以下の2点である。
  - (1) online audio converter.  
<https://online-audio-converter.com/ja/>, (参照2020-05-18).
  - (2) Sound Engine Free.

<https://forest.watch.impress.co.jp/library/software/soundengine/>, (参照2020-05-18).

- 12) manaba は株式会社朝日ネットのクラウド型教育支援サービスである。 <https://manaba.jp/>, (参照2020-05-25).
- 13) 2020年6月からは、以下で資料を公開した。ただし、図書館フレセミへの影響を避けるため、動画の公開には図書館フレセミとは別の YouTube アカウントを使用した。また、当該ページには掲載期限があるため、最終的には資料を本学の機関リポジトリに登録することも検討している。  
講習会の配布資料: Past workshop handouts. 筑波大学附属図書館. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/guidance-haifu>, (参照2020-07-08).

---

<2020. 7. 31 受理>

- 1 おおわだ やすよ 筑波大学学術情報部アカデミックサポート課学習支援担当
- 2 にし あやか 筑波大学学術情報部アカデミックサポート課学習支援担当